

第4回 ふくしま新ステージ有識者懇談会議事録

- 1 日 時 令和元年12月25日(水) 午前10時～午前11時30分
- 2 会 場 福島市役所 4階 市長応接室
- 3 出席者 伊藤宏会長、菅野廣男委員、木下真理子委員、齋藤美佐委員、
高橋満彦委員、高橋理里子委員、高谷理恵子委員、安田信二委員
- 4 欠席者 岡野誠委員、菅野孝志委員、西内みなみ委員、三宅祐子副会長、渡邊博美委員

5 内 容

○第4回懇談会(司会:政策調整課長)

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 議事(議長:伊藤会長)

議 長 議事の「(1)第3回懇談会の振り返り」から「(4)将来構想及び基本方針の
原案」まで、関連しているので、一括して事務局より説明をお願いする。

事 務 局 資料により説明。(ふくしま新ステージ有識者懇談会【第4回】(パワーポイン
ト))

市 長 将来構想としての表題が大切なのではなく、どういうまちにしていくかという
メッセージ、理念が大事である。

委 員 大きいテーマとして、福島がどのように生きていくかを大局からみていって、
メッセージとして発信することが求められているのだと思う。Yu・Me(ゆめ)会
議で出されるキーワードを見直すと、福島のいいところのキーワードと足りない
ところのキーワードはわりと一貫していて、かなり多くの人に共有されていると
思う。いいところのメッセージはやはり穏やかさ、自然と人が調和しているハー
モニー、個々が突出していないというところ。しかし、「だから元気がないんだ」
「だからもっとアピールしなくてはいけないんだ」など、そこをずっと否定され
てきているように感じる。Yu・Me(ゆめ)会議も、夢を語っていく中でどうして
も「これが足りないからこうするべきだ」のような思い込みがとても強い。常識

的な「こうあるべき」の中で出てくるキーワードが「元気」や「活気」であったりしている。今回の将来構想の中でも「こうあるべき」のキーワードが入っていて、福島のいいところのキーワードと真逆のキーワードが入っているところが気になっている。ここで、「穏やかさ」「調和」があるからこそ、自然が豊かで水の美味しさが感じられる福島の人たちがいることをアピールしていく事こそ、みんなが頑張っって参加しやすいまちのあり方になるのではないかというイメージがある。

今回の将来構想の2番目のキーワードに「世界にエールを送れるまち」とあるが、これは穏やかさのイメージとマッチすると思っている。個が強すぎず、うまく調和がとれる福島だからこそ、すべての国をすべての世界を、いろんな情勢があつて、いい・悪いがあつてもエールを送れる。だから、個々が突出していない福島というものをむしろアピールしていける。福島に足りないと思われるキーワードは将来構想から極力外して、「元気いっぱい発信ができる個性の強いまち」ではなく、調和していろいろなものがつながつて、穏やかだが、みんながつながつている。言葉としては、「私がつくる」ではなく「みんなとつくる」であれば、わりとみんなが参加しやすいと感じる。そのなかで調和しながら多様性を認めていく、素材を大事にしながら持続可能な社会をつくっていく、みんなに優しいところにつながつていく気がする。突出していないからこそむしろ良さがあるところが勇気をもって認められるような「核」のようなものをアピールできるのではないかと。 「みんなとつくる」であれば、福島の人が居心地がいい将来構想になるのではないかと。「元気都市」の「元気」が気になる。「ハーモニー」や「調和」は響きやすい言葉なのでないかと思う。そのあたりをまず置いたうえで、「調和」なり「ハーモニー」、「連帯感・一体感」といったものを活かしながら多様性をどう認めていくか、子育てをどうしていくか、「復興」などの具体的なキーワードをちりばめて将来構想ができるといい。みんなが主役ではなく、グループが主役、県全体が主役といったイメージをもっていた。

委員 今の話もわかるが、全国の中で県都として出て行ったときに、個性の強い理念も大事かと思う。福島がどうあるべきかということで「らしさ」というものがでてくる。自論だが「自分らしさ」「～らしさ」は自分が、そのものが失ってはいけないものを大切にしている姿だと解釈している。福島の「らしさ」は、福島が失ってはいけないものは何なのか。今までもこれからも失いたくないものを「らしさ」としていくと理念につながるのではと思った。福島の市民憲章に「人情」という言葉が入っていたことに驚いた。「人情」と謳っているまちは他にはなく唯一無二。福島の何がいかとよく聞かれるが、やはり人。しかし、人がいいから福島がいいだけでは、闘い抜いてはいけないので、そこをどのように言葉にまとめるか皆さんと考えたいと思うが、「みんなとつくる」よりは「ともにつくる」や「と

もに考える」「ともに考え、ともにつくる」という表現がいいかと思う。

市長 福島らしさとは何だろうということを考える必要がある。ただ、これは単にある一定の像ではなく、そこにどう向かうかという哲学を大事にしなければならないから、そういったものも含めて、将来構想をまとめてみてはどうかと提案する。

議長 人の良さや優しさを肯定する、伸ばすやり方なのか、それはそうなのだが、それを踏まえてもっと元気で活気のあるまちにしましょうというように未来の方向性を出すのか。どっちなのかというのが難しい議論になっている。

委員 言葉はとても難しい。表現できる幅がとても狭いし、その言葉だけで捉えられる意味が広いという部分で、この言葉の背景にあるものが欲しい。「みんな」と言ったときに、議論の中で出てきた主体性をどう捉えるかが大事だと思っている。「みんな」という言葉だと、一方で「誰か」と捉えてしまい、協調や調和はとても良い部分である一方で、主体性に欠けてしまう部分がある。そこをどのように言葉として紡ぎ出していったらいいか、ここで議論していく必要があると思っている。

議長 私自身も確かに優しさや調和は福島の良さだと認識しているが、それを目標にすることで、まちづくりとして持続可能性があるかというとおそらくなかなか難しい面があると思う。否定している訳ではないが、不安、心配がある。なので、わくわくや魅力という部分で、交流人口、関係人口をどんどん増やして、応援団を増やして、できれば福島に定住、移住してくれるような魅力的なまちにしたいというのが一方である。

市長 優しさを我々の個性と認めて、その上で、いかに自分たち、あるいは、外の人に魅力ある地域にしていくかを示すものが我々の将来構想である。

議長 優しさは大事にするとしても、もう一つの軸のようなものがあってもいいのではという感じがする。

委員 「優しさ」とは何だろうと思って皆さんの話を聞いていたが、受容する力や承認する力、共感する力というのがとてもあるというのが総合的に優しさというところなのではと思った。一方で、震災があって復興の時に感じたのは、忍耐強さやある一定時期を過ぎると前進していく力、受け身だけではなく、とても能動的になって自ら前に行こうという強さのようなもの。決して優しい、人がいいばかり

りではなく、その中で耐え得るものを耐えていく力や、進むべきところを進んで行く、発言すべき時は発言するなど。わかりやすい良さは優しさだが、将来的に突き進んで行くために、「ともに」というようなイメージでやっていくといいのではと感じた。

議長 調和や優しさを福島はずっと大事にしてきたし、これからも大事にするのだというメッセージは一つあると思う。

委員 一つには震災、原発事故。そういったものを踏まえた復興が一番大事かと思っている。なおかつ、連携、協働も重要だと思う。みんなとつくるや私がつくるというより「市民とつくる」という必要性があるかと思う。また、「県都ふくしま」は、福島だからこそであり、他になく非常によい。なおかつ「世界にエールを送れるまち」というのも、それぞれが今までのいろんなことを踏まえて新たな発展、希望を持って発信していくのだということで良いと思う。

委員 「将来構想」と「基本方針」という4つの漢字を繋いだ文字が2つあるが、この言葉の使い方を、中身ではなく、もう少しわかりやすい表現にできないか。また、まとめるにあたっては、言葉は限られるので重なることはあると思うが、県内の市や他の都道府県の市の将来構想はどのようなものがあるか見て、研究した方がいいのでは。また、カタカナや外来語をどれだけ入れるか、あまり入れないようにするか。技術的に言葉の選び方だが、最後全体を仕上げるときに考えてはいかがかんと思う。

議長 将来構想や基本方針と呼ばれるものの前に、これをつくるにあたってこういうことを大切に重視して考えました、つくりましたという理念的なものを短い文章で表して、将来構想と基本方針をあげるのか、あるいは、将来構想と基本方針をもう少し説明するような形で理念的なものをやるのか、どちらがいいのかと。私のイメージとしては、この下の部分だけでは言葉が少ないため、なかなかすべてを言い表すことはできないので、前文のところでこれらをつくるにあたって、このような基本的な考え方、方向性に基づいて考えましたという理念的な部分を表現するという形もありかと思った。

市長 理念的なものはその後の施策体系の一つ一つに分化するのではなくて、全体に絡んでくるものと考えてる。

委員 基本方針というのはある程度具体的な形で書いてもいいかと思うが、これは当

然市民が見るのだから、市民が見て共感したり、心を動かしたり、「福島何か変えようとしているな」「おもしろいことやりそう」「やる気しているのかな」というのを感じてもらえるようなキーワードを入れていく必要があると思う。

委員 将来構想と基本方針は、すべての施策に関わってくるような重要な、戻っていく視点になると思った。そう考えると将来構想はテーマだが、それをどのような視点でみていくかというのが基本方針だと考える。

市長 そういった視点は、何が大事なのかという将来に向けてのキーワードで構成する理念的なもので整理した方が良いと思う。

議長 優しさや調和を大切にするまちというのも一つのあり方として考えられる。それと多様性、持続可能性というものを大切にするというのものもある。それとやはり未来のことで、子どもを皆で育てていく、地域で子どもを育てていくということ。それともう一つは何らかの形で魅力を発信する。それを基本方針にどのような形に入れ込むか。

委員 将来構想は、本来ありたい姿、なっていきたい姿、将来的にあるべき姿のようなイメージなのかなと思った。

委員 市の理念が、外に出さないまでも、はっきりこの会議の中で共有されないといけないと思う。共有するテーマを一度確認する必要がある。私の中では「人情と発展」を考えた。とにかく発展しないまちには皆さん住まないと思ったので、その2つが思い浮かんだ。また、皆さんからいただいた税金をいかに皆さんのために使うかという予算立てをしていくときに、具体的な基本方針に掲げられている項目が、議論するときに必要なになるので、そこにもしっかり役に立つような具体的なものを基本方針に持ってこなければいけない。

委員 こうでなくてはいけないということよりも、どうありたいかということを追求していったほうが、最終的には発展につながるし、幸福につながっていくのではと思う。

議長 全体として人口が減ることは避けられないが、福島はそういう世の中でも人口はなるべく減らないような魅力のあるまちにしたいというのがおそらく根底にあると思う。そのためには一体何を大切にして、何を伸ばしていかなければいけないのか。「人情」「優しさ」「調和」というのは、福島に住んでいる人たちの共通す

る福島の良さみたいなもの。これをなくして発展だけあればいいということではないということだと思う。「優しさ」「調和」「人情」や、今後やはり「多様性」「持続可能性」なども考えていかないといけないということも非常に大切だと思う。

委員 「調和」というと現状維持のようなところがあり、発展性が見えないというところが難しいところだと思う。調和する状態にとどまらずそこから動いていくという視点を盛り込むにはどうしたらいいか考えた。「優しい」はいろいろな意味があり優柔不断というところもある。しかし、福島人は優柔不断ではなく、人に優しい。どんな人も否定せず、自分をちゃんと持っているから、否定しなくても受け入れられるということを考えると調和の発展形は多様性ではないか。例えば、「ともにつくる調和と多様性」という形だと現状を維持しながら、さらにその先に行く発展形がイメージしやすいのではと思った。

議長 優しさや調和の反対になるかもしれないが、若者が求めるような楽しさ、わくわく感のようなものが、少し足りない感じがする。住んでいて楽しい、わくわくするという部分がある程度欲しいと感じる。

(4) その他

事務局 第5回懇談会の日程について説明。

- ・日時 令和2年1月15日(水) 午前10時～午前11時30分
- ・会場 福島市役所 4階 市長応接室

(5) 閉会